

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年1月31日

協議会名:埼玉県生活交通確保対策地域協議会

評価対象事業名:地域間幹線系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
事業者:国際興業株式会社 系統:飯03-2系統(主系統) 飯能駅～名郷	運行区間: 〔起点〕飯能駅 〔主な経由地〕名栗車庫 〔終点〕名郷	目標達成継続に向けて飯能市と協調し、地域住民や観光客を取り込めるよう生産性向上の施策を中心に取り組みを行った。本年度も継続的に実施している高齢者定期の販売促進、名栗ふるさとまつり、ノーラ名栗でのイベント開催における増客施策を実施した。	A 生産性向上の各施策は予定通り実施された。	A 輸送人員について、事業対象期間(令和6年度)の目標244,858人に対し実績256,345人であり、目標・前年とも上回った。(目標比+11千人、前年度比+10千人)、収支率については前年より2.2%改善した。目標達成の要因としては、コロナ禍からの需要の戻りが継続し、観光客・イベント客の利用が増加していることが挙げられる。	・生産性向上の施策を中心に沿線自治体である飯能市と連携をして取り組みを行い収支率の向上を図る。
地方運輸局等における 二次評価結果 (関東運輸局)	・事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施されている。目標・効果達成状況については、目標を達成しており評価できる。結果の要因を分析し、需要動向や事業の実施状況の把握に努めること。 ・イベントにおいて自治体との連携による地域のニーズに合った地域公共交通の確保に向けた利用促進策を実施したことは評価できる。引き続き生産性向上の取組の実施を期待する。 ・広域な交通ネットワークの構築には、都県と市区町村の連携が重要であることから、他の交通機関の状況を踏まえさらなる連携を図り、地域全体で引き続き利用状況等の需要動向の把握に努め、利用者にとって使いやすい地域公共交通が確保維持されることを期待する。				

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
事業者:朝日自動車(株) 系統:五霞町役場～幸手駅	[起点] 五霞町役場 [主な経由地] 桜まつり会場(まつり開催時) [終点] 幸手駅	①桜まつりが開催され、多くのお客様にご乗車いただいた。また、桜以外の季節の花を目当てにしたお客様にご乗車いただいた。 ②渋滞が発生し、定時運行に大きな影響が出た。 ③令和6年11月、五霞町のイベントに合わせて乗り方教室を実施した。 ④令和7年2月に橋梁架け替え工事に伴う迂回運行に合わせ、利用実態に合わせたダイヤ改正を実施予定。 ⑤令和7年2月より数年間にわたり、橋梁架け替え工事による迂回運行を実施予定。	A 事業が計画に位置付けられた通り、適切に実施された。	A 輸送人員目標50,943人に対して実績は57,820人となり目標を達成した。達成理由として、新型コロナウイルス感染症により離れていた利用者が回復基調にあることと、権現堂の桜や紫陽花等の観覧を目的とした観光利用も増加したことが理由と考えられる。	・桜まつり開催時は渋滞が発生するため、関係各所と連携しバスの定時性確保を図り利用増に繋げる。 ・バスの乗り方教室を実施し需要の掘り起しを図る。 ・橋梁架け替え工事に伴う迂回運行と、それに合わせ利用実態に合わせたダイヤ改正の実施。
事業者:朝日自動車(株) 系統:本庄駅南口～児玉折返し場・赤城乳業千本さくら工場	[起点] 本庄駅南口 [主な経由地] 連雀町・児玉高校 [終点] 児玉折返し場・赤城乳業千本さくら工場	①令和5年9月～10月と令和6年3月～4月の共通学生フリーパス販売時期に合わせ沿線学校や、自社ホームページ及びバス車内で周知し、販売促進を図った。 ②赤城乳業のHPに交通手段を掲載し、工場見学者の利用を促進した。	A 事業が計画に位置付けられた通り、適切に実施された。	A 輸送人員目標156,464人に対して実績は161,294人となり目標達成となった。達成理由として、新型コロナウイルス感染症により離れていた利用者が回復基調にあることが理由と考えられる。	・引き続き共通学生フリーパスの販売促進を図る。 ・赤城乳業工場見学者へのPR活動を実施。 ・児玉高校経由便の継続運行。
事業者:朝日自動車(株) 系統:宮本町車庫～児玉折返し場・赤城乳業千本さくら工場	[起点] 宮本町車庫 [主な経由地] 本庄駅南口・連雀町・児玉高校 [終点] 児玉折返し場・赤城乳業千本さくら工場	①令和5年9月～10月と令和6年3月～4月の共通学生フリーパス販売時期に合わせ沿線学校や、自社ホームページ及びバス車内で周知し、販売促進を図った。 ②赤城乳業のHPに交通手段を掲載し、工場見学者の利用を促進した。	A 事業が計画に位置付けられた通り、適切に実施された。	A 輸送人員目標58,109人に対して実績は71,453人となり目標達成となった。達成理由として、新型コロナウイルス感染症により離れていた利用者が回復基調にあることが理由と考えられる。	・引き続き共通学生フリーパスの販売促進を図る。 ・赤城乳業工場見学者へのPR活動を実施。

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
事業者:朝日自動車(株) 系統:本庄駅南口～神泉総合支所	〔起点〕 本庄駅南口 〔主な経由地〕 小島南・沖電気前 〔終点〕 神泉総合支所	①令和5年9月～10月と令和6年3月～4月の共通学生フリーパス販売時期に合わせ沿線学校や、自社ホームページ及びバス車内で周知し、販売促進を図った。 ②沿線施設との企画乗車券導入に向けての協議は新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し見送った。	B 新型コロナウイルス感染症の影響により、一部の事業が計画に位置づけられたとおり実施することができなかった。	A 輸送人員目標157,750人に対して実績は182,618人となり目標達成となった。達成理由として、新型コロナウイルス感染症により離れていた利用者が回復基調にあることが理由と考えられる。	・引き続き共通学生フリーパスの販売促進を図る。 ・路線延伸を継続し、接続する町営バスとのシナジー効果を狙う。
地方運輸局等における 二次評価結果 (関東運輸局)	・事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施されている。目標・効果達成状況については、目標を達成しており評価できる。結果の要因を分析し、需要動向や事業の実施状況の把握に努めること。 ・共通学生フリーパスの販売促進の実施、路線延伸の検討など利用促進策の実施について評価する。引き続き生産性向上の取組の実施を期待する。 ・広域な交通ネットワークの構築には、都県と市区町村の連携が重要であることから、他の交通機関の状況を踏まえさらなる連携を図り、地域全体で引き続き利用状況等の需要動向の把握に努め、利用者にとって使いやすい地域公共交通が確保維持されることを期待する。				

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
事業者: イーグルバス株式会社 系統: W01 小川町駅・白石車庫	運行区間: [起点]小川町駅 [主な経由地]和紙の里 [終点]白石車庫	前年の事業評価結果に基づき、引続き沿線行事・イベントの参加者や公共交通会議委員、沿線町村職員への路線バス利用喚起を自治体と連携し実施する計画で、特にコロナ明け再開されたイベントでは自治体と協力し、バス利用によるイベント会場への移動手段としての利用促進が出来たと思われる。 また、路線沿線保育園へのバス教室、バス車内への絵画の掲出実施により、路線沿線住民への路線バスへの意識向上、利用促進は実施できた。 但し、乗務員不足により、臨時輸送を伴うイベントや多客期における続行便の対応が行えなかった。	B コロナ明け再開されたイベントでは自治体と協力し、バス利用によるイベント会場への移動手段としての利用促進が出来たと思われる。また、路線沿線保育園へのバス教室、バス車内への絵画の掲出実施により、路線沿線住民への路線バスへの意識向上、利用促進は実施できた。但し、乗務員不足により、臨時輸送を伴うイベントや多客期における続行便の対応が行えなかった。	B 輸送人員の目標38,381人に対して実績は34,824人で目標未達となった。要因はハイキングイベントが終了となり、それに伴い遠距離利用旅客が減少したと考える。また、旅客の利用の多い時間帯の運行において途中まで同一の運行経路となっている申請番号2に偏ったためと思われる。	東秩父村、小川町、寄居町と連携し、路線バス利用喚起策を実施すると共に、他交通モードとの連携、乗務員不足の解消。
事業者: イーグルバス株式会社 系統: W02 小川町駅・和紙の里	運行区間: [起点]小川町駅 [主な経由地]バトリアおがわ [終点]和紙の里	前年の事業評価結果に基づき、引続き沿線行事・イベントの参加者や公共交通会議委員、沿線町村職員への路線バス利用喚起を自治体と連携し実施する計画で、特にコロナ明け再開されたイベントでは自治体と協力し、バス利用によるイベント会場への移動手段としての利用促進が出来たと思われる。 また、路線沿線保育園へのバス教室、バス車内への絵画の掲出実施により、路線沿線住民への路線バスへの意識向上、利用促進は実施できた。 但し、乗務員不足により、臨時輸送を伴うイベントや多客期における続行便の対応が行えなかった。	B コロナ明け再開されたイベントでは自治体と協力し、バス利用によるイベント会場への移動手段としての利用促進が出来たと思われる。また、路線沿線保育園へのバス教室、バス車内への絵画の掲出実施により、路線沿線住民への路線バスへの意識向上、利用促進は実施できた。但し、乗務員不足により、臨時輸送を伴うイベントや多客期における続行便の対応が行えなかった。	A 輸送人員の目標18,003人に対して実績は21,445人で目標達成となった。要因はイベントの輸送の際、新規利用者が増加したものである。また、当該系統は申請番号1番と同一の運行経路となっていることから、利用の多い時間帯の運行が当該系統に偏ったためと思われる。	東秩父村、小川町、寄居町と連携し、路線バス利用喚起策を実施すると共に、他交通モードとの連携、乗務員不足の解消。
地方運輸局等における 二次評価結果 (関東運輸局)	・事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施されている。目標・効果達成状況については、概ね目標を達成しており評価できる。結果の要因を分析し、需要動向や事業の実施状況の把握に努めること。 ・観光客を含めた交流人口への利用促進策については、アフターコロナにおける利用状況等の検証を行うとともに、来訪者の動向を調査し分析を行った上で、効果的な利用促進策の検討を進めていくことを期待する。 ・広域な交通ネットワークの構築には、都県と市区町村の連携が重要であることから、他の交通機関の状況を踏まえさらなる連携を図り、地域全体で引き続き利用状況等の需要動向の把握に努め、利用者にとって使いやすい地域公共交通が確保維持されることを期待する。				

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
事業者:国際十王交通株式会社 系統:熊谷駅北口～犬塚	運行区間: [起点]熊谷駅 [主な経由地]南河原支所 [終点]犬塚	・共通学生フリーパス(定期券)、スクラムパス(高齢者定期券)発売時期に合わせてホームページ及びバス車内で周知し、販売促進を図った。 ・行田市立南河原小学校でバス乗り方教室を実施した。 ・南河原ふれあい祭りで路線バス利用促進を図った。	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	A 年間8,226人の利用増、2,332千円の増収となった。要因として令和5年8月に実施した運賃改定に加え、くまがやドーム・陸上競技場での大会がコロナ前に戻り来訪者が増えたことが考えられる。	・引き続き共通学生フリーパス、高齢者定期券の販売促進を図る。 ・くまがやドーム・陸上競技場で行われる大会関係者の路線バス利用促進を図る。
地方運輸局等における 二次評価結果 (関東運輸局)	・事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施されている。目標・効果達成状況については、目標を達成しており評価できる。結果の要因を分析し、需要動向や事業の実施状況の把握に努めること。 ・共通学生フリーパスやスクラムパスの販売促進の実施について評価する。交流人口への利用促進策については、アフターコロナにおける利用状況等の検証を行うとともに、来訪者の動向を調査し分析を行った上で、効果的な利用促進策の検討を進めていくことを期待する。 ・広域な交通ネットワークの構築には、都県と市区町村の連携が重要であることから、他の交通機関の状況を踏まえさらなる連携を図り、地域全体で引き続き利用状況等の需要動向の把握に努め、利用者にとって使いやすい地域公共交通が確保維持されることを期待する。				
第三者評価委員会における 各委員からの意見	令和6年度地域公共交通確保維持改善事業第三者評価委員会における委員による以下の助言は、今後の取組を行う上で必要な観点であり、考慮されたい。 ○公共交通を取り巻く環境は非常に厳しく今が転換期。 ○鉄道など他の交通モードと情報共有を図り、データに基づいた具体的な目標・成果・課題を明らかにし、関係機関と連携のうえ地域全体で検討することが重要。 ○データの基礎となる基本情報は、応用可能なデジタル化にシフトすることを期待する。				